

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3227355号
(U3227355)

(45) 発行日 令和2年8月20日 (2020.8.20)

(24) 登録日 令和2年7月31日 (2020.7.31)

(51) Int.Cl.

A 6 3 B 47/00 (2006.01)

F 1

A 6 3 B 47/00

A

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 実願2020-1701 (U2020-1701)

(22) 出願日 令和2年5月11日 (2020.5.11)

新規性喪失の例外適用申請有り

(73) 実用新案権者 715003327

高松 雅幸

東京都町田市図師町1266番地138

(72) 考案者 高松雅幸

東京都町田市図師町1266番地138

(54) 【考案の名称】 ボールホルダー

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】リュック等にボールホルダーを取り付けて持ち歩く際にボールホルダーが安定せず揺れてしまい、人にぶつかったりしてしまうため、リュックやバック等に安定的に固定され、ボールホルダーを携帯しやすくするボールホルダーを提供する。

【解決手段】ひも状のアタッチメントにより、ボールホルダー本体5を2か所で吊り上げ、別々の取り付け部に固定する。

【選択図】図2



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

ボールホルダー本体を 2 か所で吊り上げ、別々の取り付け部に固定するひも状のアタッチメントを有するボールホルダー。

【請求項 2】

ボールホルダー本体を 2 か所で吊り上げ、別々の取り付け部に固定する二本のひも状のアタッチメントを有するボールホルダー。

【請求項 3】

前記アタッチメントには、長さ調整具を設けた請求項 1 または 2 のボールホルダー。

10

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案はボールホルダー、特にリュックやバック等に安定的に取り付けるためのボールホルダーに関するものである。

【背景技術】**【0002】**

従来のボールホルダーの持ち運び方は、下記の特許文献 1 のように、ボールホルダー本体に設けたひも状のアタッチメントを、リュックやバック等の 1 か所に取り付けている。

【先行技術文献】

20

【特許文献】**【0003】**

【特許文献 1】実用新案登録第 3 1 9 8 8 2 4 号公報

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

従来のボールホルダーの持ち運び方は、ボールホルダーのひも状のアタッチメントをリュックやバック等の 1 か所に取り付けるので、ボールホルダーがぶらぶらと揺れて不安定であり、すれ違う人や物にぶつかることがある。

【0005】

30

そのために、ボールホルダーをリュックやバックまたは腰ベルトやズボンのベルト輪等の取り付け部に取り付けて歩く際に、ボールが前後左右へ大きく揺れる現象を抑えようとしたボールホルダーを提供するものである。

【0006】

また、様々な形状の取り付け部に取り付けられるような柔軟な構造であるようにしたボールホルダーを提供するものである。

【課題を解決するための手段】**【0007】**

本考案は、上記の課題を解決するために、下記のボールホルダーを提供するものである。

(1) ボールホルダー本体を 2 か所で吊り上げ、別々の個所に固定するひも状のアタッチメントを有するボールホルダー。

40

(2) ボールホルダー本体を 2 か所で吊り上げ、別々の個所に固定する二本のひも状のアタッチメントを有するボールホルダー。

(3) 前記アタッチメントには、長さ調整具を設けた上記 (1) または (1) のボールホルダー。

【考案の効果】**【0008】**

ボールホルダーをリュックやバックまたは腰ベルトやズボン輪等に取り付けて歩く際にボールが前後左右へ大きく揺れる現象を抑えたボールホルダーを提供することができる。

【図面の簡単な説明】

50

【 0 0 0 9 】

【 図 1 】 本発明のアタッチメントの全体図を示している。

【 図 2 】 本発明のアタッチメントとボールホルダー本体を接続した図を示している。

【 図 3 】 本発明のアタッチメントを使用しボールホルダーを持ち運ぶ使用例の図を示している。

【 図 4 】 本発明のアタッチメントを使用しボールホルダーを持ち運ぶ別の使用例の図を示している。

【 図 5 】 図 4 の側面図を示している。

【 考案を実施するための形態 】

【 0 0 1 0 】

10

本発明のボールホルダーは、ボールホルダー本体と、そのボールホルダー本体を吊り上げるアタッチメントを有するボール保持具。

【 0 0 1 1 】

本発明のアタッチメントは、ボールホルダー本体を吊り上げる取り付け具で、ひも状になっている。アタッチメントの端部に、カラビナを設けると、ボールホルダー本体または取り付け部と接続・取り外しができるので好ましい。

アタッチメントの本数は、1本以上で、1本の場合は、ボールホルダー本体の固定ができる取り付け部の少なくとも2か所を経由して取り付けられている。

【 0 0 1 2 】

本発明のアタッチメントの固定は、少なくとも2か所で、取り付け部間の間隔が狭まらないようにする。

20

【 0 0 1 3 】

以下、本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。

図1では、アタッチメントは、ひも1、ひも1の長さを調整するサイズ調整具2、ひもを留めるカシメ3、ボールホルダー本体5に接続するカラビナ4とから構成される。

【 0 0 1 4 】

ひも1は、布、革、化学繊維などの素材でできており、リュックやバック等のショルダーや手持ち部の取り付け部に巻き付け、サイズ調整具2にて留めても滑りにくく外れにくい素材でできている。

【 0 0 1 5 】

30

サイズ調整具2はプラスチック、金属などの素材からできており、リュックやバック等のショルダーや手持ち部の取り付け部に巻き付けたひも1を留め、長さを調整したり、ボールホルダー本体5の位置を調整する。

【 0 0 1 6 】

かしめ3は金属の素材からできており、ひも1がサイズ調整具2から外れないように、ひもを二重にした部分をかしめ3で留める。また、カラビナ4とひも1の接続に用いる。

【 0 0 1 7 】

カラビナ4は金属の素材からできており、アタッチメントの端部に設け、ボールホルダー本体または取り付け部と接続・取り外しのためのものである。

【 0 0 1 8 】

40

ボールホルダー本体5は、布、革、化学繊維などの素材でできており、様々なサイズのボールを収納するものである。

【 0 0 1 9 】

ひも1をサイズ調整具2の部分で外して、リュックやバック等のショルダーや手持ち部の取り付け部に巻き付けて接続する。カラビナ4にボールホルダー本体5を接続して持ち歩く。

【 符号の説明 】

【 0 0 2 0 】

1 ひも

50

- 2 サイズ調整具
- 3 カシメ
- 4 カラビナ
- 5 ボールホルダー本体

【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】



【図 5】

